

サハリン事務所現地レポート

2018年12月

(件名) 中小企業協力に関する日露会合

報告者：所長 佐藤 知至

12月7日(金)、ハバロフスクで開催された「中小企業協力に関する日露会合」に出席したので報告する。当該会合は、経済産業省とロシア経済発展省との間で合意された「覚書」に基づき、中小企業振興の協力などを目的で開催されているもので、今回は、日本側企業14社(うち北海道関連企業4社)、ロシア側企業16社のほか、両国の行政機関や支援機関(JETRO、ロシア中小企業公社)などが出席した。

午前中は「官民合同プレナリーセッション」と題し、参加団体が一つの会場に集まり、支援機関からはその活動報告、企業からは自社の海外展開などについてプレゼンテーションが行われた。

午後からは、政府関係者等による「政府間対話」、企業等による「交流会」が開催された。「政府間対話」では、参加団体から対ロシア(日本)政策や中小企業支援策を紹介した後に意見交換が行われ、北海道からも、これまでの極東における取組みやサンクトペテルブルクとの交流について説明を行った。また、別会場の「交流会」では参加企業の取組説明や個別のビジネスマッチングなどが行われた。

今回、参加したロシア側の企業からは、いずれも海外展開の意欲の高さを感じると共に、日本に対する協力の期待が伺えた。また、ロシア側政府関係者からは、これまでの取組みに対する自己分析を踏まえた国内企業への政策的な支援の説明があり、特に製造分野に対する国内企業育成の「本気」が伺えた。

これまで、ロシアの製造業に関しては、品質やコンプライアンスなどの部分で課題が指摘されることもあったが、今後、本会合に参加したような意欲の高い企業と政府の支援策がかみ合うことにより、国際競争力が高まっていくのではないかと考える。



リーセッション



政府間対話

官
民
合
同
プ
レ
ナ

(件名) 「北海道フェア2018」の開催

報告者：主査 梶山 雅生

12月15日、16日の2日間で「北海道フェア2018」がユジノサハリンスク市内の大型ショッピング施設「シティモール」において開催されたので報告する。

本フェアでは洋ナシや干し柿など初めて出展する商品に加え、道産の米やお菓子、たれ類、コーヒー豆、道北地域からの出展品であるラーメンなど約80品目の食品が販売された。洋ナシは現地で販売されている商品の数倍の値段にも関わらず、フェア開始から1時間も立たないうちに完売となり、日本の果物に対する現地の需要を感じることができた。

今回、売り場を見ていて感じたのは、同じ商品を大量買いする顧客が前年より多いという事である。来場者に話を聞くと「去年食べてみて本当に美味しかったので、家族や友人にも食べさせたい。」という方が多く、日本の果物や食品は年末の贈答品として大変喜ばれるとのことだった。中には親戚への贈答品としてミカンの箱を大量に購入する方もおり、タイミングや理由によっては大胆にお金を使うロシア人の習性が窺えた。

道産品の対口輸出には物流や価格、煩雑な認証制度など多くの課題が存在する。しかし、本フェアの様な地道な活動による現地のニーズの把握こそが、更なる輸出拡大に向けた第一歩であると思う。



箱売りされるミカン



お菓子コーナーに集まる来場者たち